

第36回全国研究大会

in オンライン【Zoom】

【開催日】

2023(令和5)年2月11日(祝・土)12日(日)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためすべてオンラインで開催します。

【大会テーマ】

包括的な視点に基づく アディクション問題へのソーシャルワーク ～回復のストーリーをつなごう・描こう～

第36回ASW協会全国研究大会に寄せて

【会長・大会長挨拶】

関東甲信越支部東風の会はここ数年、入会員の所属の多様化を受け、支部研修としてアディクションに関する包括的な地域支援を取り上げてきました。依存症の関連問題というよりは家族全体・地域全体の問題の中に依存症問題がある、という姿勢です。本大会でも、包括的な問題としてのアディクションと、それでも人は回復を歩むというプロセスの中に求められる支援の形や技術を考える大会としたいと計画しました。具体的には基礎講座をベースにマイクロ・メゾ・マクロレベルで考える分科会4つを提供します。

ASW協会会員だけでなく、関心ある多くの方々にご参加いただきたいと思います。この大会で得た手ごたえを皆さまの活動する場に反映していただければ幸いです。

一般社団法人日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会 会長
第36回全国研究大会 大会長 山本 由紀

【事務局長・大会事務局挨拶】

画面に向かって「それではまた、ありがとうございました」と手を振って「退出」ボタンを押す…オンライン会議で最後に交わすやりとりが定着しつつあります。各種研修もオンラインが主流となり、「開始前の雑談」などが参加者と交わせない一方で、「子育て中でも研修に参加出来ました」などの交流の広がりもあります。本研究大会は関東甲信越支部メンバーがオンライン会議で準備をしてきました。会議は「ネットワークミーティング」でメンバーの語りからスタートします。コロナ禍ならではの「支援の見通しの立ちづらさ」などの戸惑い、そして普遍的な、ソーシャルワーク実践の「迷い」「不安」、時に「怒り」も共有してきました。本研究大会でも多くのASW協会会員の皆さん、そしてアディクションに関心を持つ多くの方々と「学びと分かち合い」の時間が作れることを楽しみにしています。

一般社団法人日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会 事務局長
第36回全国研究大会 事務局 高橋 陽介

【主催】一般社団法人 日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会

【後援】公益社団法人 日本社会福祉士会 / 公益社団法人 日本精神保健福祉士協会

公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会 / 特定非営利活動法人 日本ソーシャルワーカー協会 (以上、申請中)

プログラム

(敬称略)

【1日目】2月11日(祝・土)	ルーム A	ルーム B
9:00~	受付開始	
9:30~9:45	開会式(大会長挨拶・受講にあたっての連絡事項等の説明)	
9:50~12:50	リレー式基礎講座①	分科会1
14:00~17:00	リレー式基礎講座②	分科会2
17:30~19:00	ズーム de 交流会 ※ASW協会会員限定【先着100名】 (17:20~受付開始)	

【2日目】2月12日(日)	ルーム A	ルーム B
8:30~	受付開始	
9:00~12:00	分科会3	分科会4
12:15~12:30	閉会式	

リレー式基礎講座 ~回復のストーリーを描くために~

2月11日(祝・土)
9:50~17:00

【選択方法について】

申込の際に、「基礎講座1」か「分科会1」・「基礎講座2」か「分科会2」のどちらかを選択してください。

回復までの長い道のりは、ひとつの機関、ひとりの支援者で支えるのではなく、多機関で、そして当事者とも協働が必要です。本講座では、総勢10名の各領域のソーシャルワーカーたちがリレーのように「地域に潜在化する問題」「家族支援」「インターベンション」「専門治療」「多様なアディクション支援」「リカバリー」「ネットワークづくり」という知識のボタンをつないでいきます。講座全体で「回復のストーリー」が完結する基礎講座を一緒に駆け抜けましょう。前半(治療以前)・後半(治療とその後)に分けて走ります。

【基礎講座1】2月11日(祝・土)9:50~12:50

潜在化した問題から専門治療への道

- 1 俵 はるみ(柏市地域生活支援センターあいネット)
- 2 山本 由紀(国際医療福祉大学、遠藤嗜癮問題相談室)
※コーディネーター
- 3 橋本久美子(母子生活支援施設ポルテあすなろ)
- 4 左右田 哲(北里大学付属病院)
- 5 齊藤 健輔(東北会病院)

【基礎講座2】2月11日(祝・土)14:00~17:00

専門治療から回復への道

- 6 高山 輝大
(独立行政法人国立病院機構久浜医療センター)
- 7 石久保 亮(ハナクリニック)
- 8 小笠原裕子(遠藤嗜癮問題相談室、白峰クリニック)
- 9 岡崎 直人(日本福祉教育専門学校)
- 10 田中 和彦(日本福祉大学)

分科会1 マクロレベルのソーシャルワーク

私たちを取り巻く環境を俯瞰した学び

~依存症に関わるソーシャルアクション、被害者の語り、治療ギャップ~

2月11日(祝・土)
9:50~12:50

アルコール健康障害対策基本法が2013年に成立してから、間もなく10年がたとうとしています。この機会にアルコール関連問題へのソーシャルアクションとしての取り組みの今までと今後を考える分科会を企画しました。まず、市民活動として長年活動してこられたASK(アルコール薬物問題全国市民協会)代表の今成知美さんにASKの誕生と活動、基本法成立までの歩みを語っていただきます。次にアルコール関連問題の中でも一番深刻な事態に直面された飲酒運転事故とイッキ飲ませ被害者のご遺族の方々から貴重な体験談を語っていただきます。稗田里香さんには、基本計画の重要テーマであるアルコール依存症の治療ギャップについて現状と取り組みについてお話しいただき、最後に参加者との意見交換を行います。

今成 知美(ASK 特定非営利活動法人アルコール薬物問題全国市民協会)

飲酒運転事故遺族の方

イッキ飲ませ被害者遺族の方

稗田 里香(武蔵野大学)

岡崎 直人(日本福祉教育専門学校)※コーディネーター

松本 直樹(井之頭病院)※コーディネーター

分科会2 メゾレベルのソーシャルワーク

刑の一部執行猶予制度～再犯防止に向けて、回復の時を地域でおくる～

2月11日(祝・土)
14:00～17:00

2016年、刑の一部執行猶予制度が施行されました。刑の一部執行猶予制度は、改善更生は刑務所という「施設内」での処遇と、執行猶予期間中の「社会内」での処遇の連携によって再犯防止を目指すものです。社会内での処遇、それは地域の中で社会的援助を提供することであり、医療やリハビリテーション、自助グループといった地域の中でのアクションの回復です。社会生活のなかでの改善更生における、私たちにできること、足りないことを「司法と福祉の連携」から紡ぎだす貴重な機会となる分科会です。

今福 章二 (更生保護法人全国更生保護法人連盟理事長、NPO 法人日本BBS 連盟会長、保護司みらい研究所代表、中央大学法科大学院客員教授)

小林 良子 (社会支援ネット・早稲田すばい代表理事、保護司、ジャカルタ・ジャパン・ネットワーク事務局長)

橋本久美子 (母子生活支援施設ポルテあすなろ) ※コーディネーター

青木 知明 (川崎マック) ※コーディネーター

ズームde交流会 in 全国研究大会

2月11日(祝・土)
17:30～19:00

2020年12月以降開催されてきた当協会「ズームde交流会」を昨年大会に引き続き今回も開催いたします。会員同士の交流、経験や知識の共有の場になればと思います。

進行：石久保 亮 (ハナクリニック) 橋本久美子 (母子生活支援施設ポルテあすなろ)

分科会3 ミクロレベルのソーシャルワーク

多問題家族を支援するためのケーススタディ ～事例検討から学ぶ～

2月12日(日)
9:00～12:00

アディクション問題の棲みつく家族の中には、どちらが先なのか、問題が重層化している多問題ケースがあります。SOSを出さず、相談に動くキーパーソンがいないことが多く、そもそもアディクションがSOSなのかもしれません。みなさんはアディクションを手掛かりに家族全体が見えているでしょうか。私たちは誰からでも、どの場面からでも、最初に接触したクライアントからの限られた情報から、家族全体の状況を理解し、家族のストーリーに添って支援を展開することが求められます。家族内の弱者の人権を守り、家族全体の機能を高め、その中でアディクション問題への介入もプランに入れる。この分科会では、家族システム論と家族ソーシャルワークのエッセンスを学び、モデル事例についての対話を通し、必要な技術・視点を考えていきます。

講師：山本 由紀 (国際医療福祉大学、遠藤嗜癖問題相談室)

モデル事例提供：森 天里沙 (NPO 法人回復はどこにでもある 相談支援事業所フェリシダ 主任相談支援専門員)

高橋 陽介 (独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター) ※コーディネーター

高山 輝大 (独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター) ※コーディネーター

分科会4 援助職のためのエモーショナル・リテラシー

～気持ちを言葉にするワーク～

2月12日(日)
9:00～12:00

エモーショナル・リテラシーとは、自身や他者の感情を理解し、健康的な形で表現する力のことです。感情における知性、心のある知性とも言われます。「依存症」という病を持った方々に関わる私たち援助者の「個人の内面・在り方」は、回復支援のシステムの一部です。「回復」には、私たちも、まず自分自身の気持ちに向かい、自己点検やメンテナンスをすることが大切です。援助者の中には、ご自分の感情に気付かず、またはフタをしてしまっていて、しんどい思いをしている方も多いのではないかと思います。気持ちに向き合うことは、一人では難しくてもグループではできるのではないのでしょうか？この分科会では、エモーショナル・リテラシーの講義とワークを企画しています。エモーショナル・リテラシーについて学び、ご一緒に体験してみませんか？

講師：引土 絵未 (日本女子大学)

ファシリテーター：石久保 亮 (ハナクリニック)

成宮 康彦 (ジャパンマック)

板倉 康広 (日本福祉教育専門学校、家族相談室ドラセナ)

高倉 野花 (救世軍自省館)

他

【申し込みについて】

方法 ピーティックスでお申し込み下さい。

お申込みいただいた方は、2023（令和5）年2月9日（木）までに
参加URLと各種資料（抄録集）のダウンロードについてお知らせします。

受付開始日時 2022（令和4）年 12 月 10 日（土）12 時から

受付期限日時 2023（令和5）年2月4日（土）24 時まで

URL <https://peatix.com/event/3062242>



※当日の資料（抄録集）は、ダウンロードができるようになります。

※印刷された抄録集が必要な方は、④～⑥でお申し込みください（大会終了後送付）。

※Zoom交流会は、無料（ASW協会会員のみ・先着100名限定）です。

ただし、交流会のみの参加はできません。

【参加費について】

①ASW協会会員 4,000 円 ※2022（令和4）年 12 月までに入会申請された方は会員対応

②非 会 員 6,000 円

③学 生 2,000 円

④ASW協会会員 5,000 円（抄録集込み：大会終了後、送付します）

⑤非 会 員 7,000 円（抄録集込み：大会終了後、送付します）

⑥学 生 3,000 円（抄録集込み：大会終了後、送付します）

【情 報】

全国研究大会に関する情報は、

・ASW協会ホームページ ・全国研究大会ホームページ ・Facebookページ



で随時更新中です。

【大会事務局】

大会事務局メールアドレス（お問い合わせはメールをお願いします）

aswkantou2022@gmail.com

独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 高橋 陽介・尾崎 淳
〒239-0841 神奈川県横須賀市野比 5-3-1